邊要分界圖考

内閣文庫
和書
類 三五一九七
號
冊 九
函 一七八
架 三

内閣文庫
函
冊
號
類
架

217

内閣文庫
番號 和 35197
冊數 9 (4)
函號 178 102

国立公文書館
National Archives of Japan

東西邊要分界圖考　邨弗加

四

国立公文書館
National Archives of Japan

閲2/19

編脩地志
備用典籍

邊要分界圖考 卷之四

邦弗（五カ）加圖

近藤守重 輯

国立公文書館
National Archives of Japan

全上

此畧図ハ天明六年見分ノ時エトロフ
滞留ノ赤人イシュヨニ問フ製スル所ナリ
其地理甚簡ナリト云ヒ姑ク挙テ参考
ニ備ルナリ

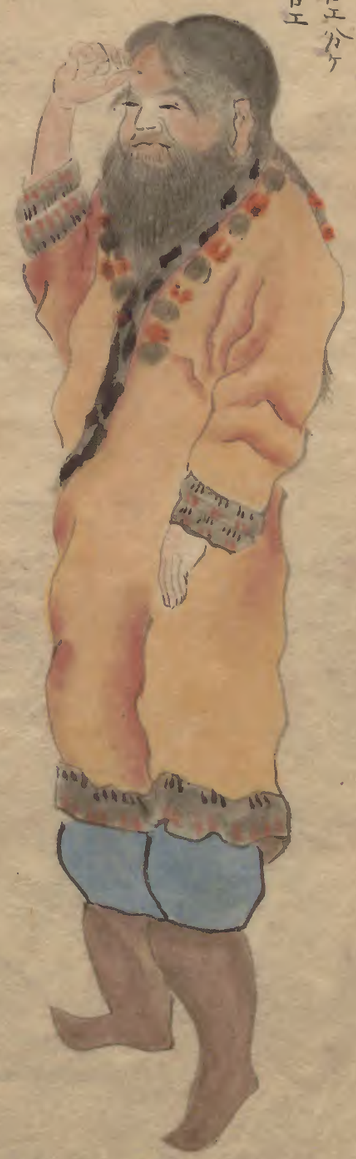
五ブカ　諸島之圖

此畧図ハ寛政十三年
エトロフニ於テ五ブカ投化
夷人イチャンゲニ其他老
夷ニ問テ製スル所ナリ
別ニ一島ツヽノ細図アリ

チュプカ蝦夷人之圖

是ハ此方蝦夷魯西亜風俗ニ化シタルナリ

髮ハ梳テ左右ニ分ケ末ヲ鬟ヲ後ロニ垂ル



名　イチヤンケムシ
子　イモンケヤツクル
妻　イナンシャウンヤツ

人ニ對シテ拜スルニ男女トモ立テ大指人指中指三本ヲ一ニ聚メ先ツ額ニ當テ次ニ胸ニ當テ左ノ肩右ノ肩ト當テ後ニ頭ヲウナヅキ拜スルナリ

服ハエトヒリカトニ鳥ノ皮ヲ丸ムキニシタルヲ羽ヲ裏ノ方ニシテ幾ツモ綴リ縫ヒ用ユ緣ハ黑キ犬ノ毛ヲ皮トモニハク切リエトヒリカノ嘴ヲ綴リ附ク股引ヲ着シ靴ハ海豹皮ニテ畠ノ如ク脚半ヲ作リ附ニ作ル

拇ニロレヤ人ノ言ニ云指ヲ聚ルヿ大指ヲ我父トシ人指ヲ我子トシ中指ヲ我氣トス父ナケレハ生ゼズ子ナケレハ貪獸ニ為リ氣ナケレハ死ス故ニ之ヲ以テ佛ニ禱ル是ヲ名テケレスタト云

鉄炮玉薬ハロシヤ人ヨリ得ル所ナリト云鉄炮ハ火打仕掛ナリ

婦人ノ帽子ハ下地ヲ厚ク頭巾ニ拵ヘ其上ヘ更紗ヲ三角ニ折テ前ニ當テ後ロヘ廻シテ結ヒ隅ノ端ハ後ロヘ垂レタルナリ

童子ノ頭間ニ掛ル十文字ノ鉄物ニテ糸ヲ附ケ頭ヘ掛ル是ハ守リノ由ニテロシヤノ教師ヨリ與ル所ナリ其名ヲケレスタト云

チユブカ帽子之畠ノ

皮ニテ作ル裏ハ狐皮ナリ
チユブカ夷人及魯西亜人モ
用ユト云

婦人ノ帽子

下地ヲ如畠頭巾ニ堅ク拵ヘラキ上ハ更紗ノ服紗ヲ三隅ニ折テ前ヨリ後ヘ廻シ結ヒ二隅ノ端ハ後ヘ垂レル

ヱトピリカ鳥之畠

此鳥東ハヱトロフ島ヨリ奥嶋ニ西ハカラフト地ヨリ奥ニ多シ大サ鴨ノ如シ羽黑ク嘴紅ニシテ美ナリ故ニ名クヱトハ嘴ピリカ美ノ夷言ナリ

クルムセ夷人革舟之圖

小舟ノ骨ヲ拵ヘ皮ニテ丸ニ包ミ
中着ノロヲ結リタル如ニシテ身ヲ
容レ風波ニ水ノ入ラザルヤウニノ切
ル蝦夷、トンドナツプト云骨西亜ハ
ハイクルと云
蝦夷人ニウルツプ島ニテクルムセ
此舟ニ乗リ弓矢ヲ持テ鳥ヲ逐
ヒナカラ櫂ハ左右ニ捻クリ意フニ
中ニ糸ナトノ仕掛アリテ足ニテ櫂
ヲ動スナラン

四國阿波着岸魯西亜人之畠

明和八年魯西亜人ハンベンゴロウ
一名アウス カムサスガトオホツカノ間
リ出船シテ レモシリ島ヲ經テ日本ノ
東海ヲ廻リ針路ヲ測リ阿波ヱ船
繫シテ新水ヲ取リ夫ヨリ琉球
大島ヱヨリテ長崎ノ紅毛
加比丑書簡ヲ送リ阿波ノ
恩ヲ謝シ且奥蝦夷地松前
ノ要害ヲ告ケ越セリ其始末
詳ニ本文ニ載ス

此畠本書甚麻ナリ故ニソノ
容貌服飾ヲ見ニ足ラズ姑ク
本書ノ一ニ寫スシ

長ノ名ハロンモリツアラアダルハンベンゴロウ
一名アウス

東蝦夷地アツケシ渡来魯西亜人之畫

安永八亥年魯西亜人交易之由ニテ
アツケシノ内ナクシコイ迄渡来ス
其事本文ニ詳ナリ

髪白苧糸ノスケタルガ如キ
色ナリ眉毛モ同シ眼中ハ茶色
ナリ
上着花色羅紗股引白ヒロウド
笠黒ヒロウト縁ハラツコ皮ニテ作
手ニ更紗ノ巾ヲ持リ　靴ハ皮ナリ
太刀ハ銀ノ鞘柄ハ皮柄ニ鍔ナシ

名ヒンサバノン

是ハ　チュブカノ蝦夷人ニシテ
ロシヤ人ノ通詞ヲナスモノ
其服ハ既ニロシヤニ変ジタリ

髪モ眼モ黑シ髪ハ中ヨリ分テ
後ニ細ミ下ル耳金ハナシ
上着紺色ノ唐木綿下着モヘ黄
羅紗ノ着セリ

名ヒリイタリ

国立公文書館
National Archives of Japan

エトロフ滞留魯西亜人之畠

天明五巳年ヨリ寛政三亥年ニテ
七ケ年エトロフ嶋ニ滞留スクナシリ嶋
マテモ来ル松前ヨリ長崎ニ至リ紅毛船
エ便乞シ帰国ヲ乞ト云ヘリ

名 シメランドロヘイイシュソフイシュヨ

色至テ白ノ髪ウス赤ク
長高ノ眼ノ玉茶色ニ髭ヲ剃ル

上着ハチョウキチ国ノラレントニ云鹿皮ニ臙脂ノ皮ヲ縁ニ付ケ羅紗ノ如キ帽子ヲ被リ
更紗ノ巾ヲ頸ニ巻キ下着ハ羅紗ヲボタンニテ掛ケ羅紗ノ半股引ヲ着スボタンハ
銀ナリ靴ハ黒キナメシ皮ナリ

同

名 イワンエレゴーイシュ サスノスコイ

服ハ表ハ紺木綿ニテ裏ハ黒キ毛皮ニテ
拵ヘ縁ハラツコノ皮ニテ附ル肌着ハ白キ綸子ェ
白鳥ノ羽ヲ真ニ入レ夫ヲ綸子ノ摸様ニ糸ニテ
刺シ縫ニシタルモノニテボタンハ銀ナリ

ウルップ島在留魯西亜人之畫

寛政七八年ノ頃ヨリウルップ島エ渡来在留今ニ歸ラズ

髪ハウス赤シ眼中ハ犬ノ目ノ如シ瞳子白ク見エ唐木綿ヲ着ス

名 ワシレイコレニシプズエズトンケレトブセ

女ノ名 ゼナンエシンノラリイナ ラニシヤアレキセエワ

顔色至テ白シテ桃色ナリ髪ハウス赤ク眼中ハ犬ノ目ノ如シ

頭ハ紅ノ切ヲ加爲被上着ハ猩々緋ノ唐織ノ背ヨリハラリテ前ニテ結フ袴ハ白羅紗エ赤茄黄芽ニノ模様ヲ縫ニス靴ハ皮ナリ

銀皿エ魚肉ヲ盛ル爲

子供ノ名 ナタリヤ ヘドレヤン

ウルツフ島魯西亜人大筒ヲ打図

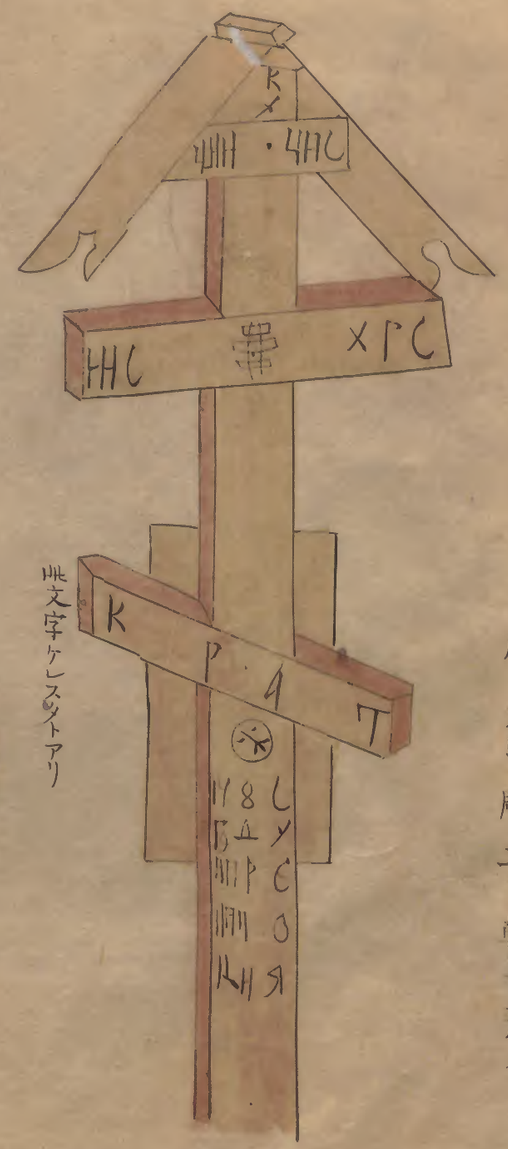
此ハ蝦夷風ノ倉ナリ此倉ヲ作テ大筒鉄炮其外貯ヘ置ク大筒モ直ニ此縁ノ上ニテ打メルヲ見ルマニ畫ス

魯西亜人所持佛像銅版之畫

赤人イシュヨ所持ル モノヲ寫ス

唐銅ノ鑄物ナリ蝶ツカイ有リ佛像ハ硝子ヲ燒付ケタル如ノ其彩色悉ク細密ナリ

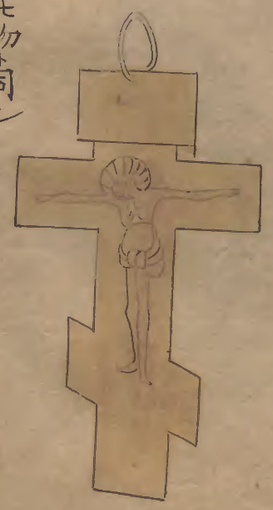
ヱトロフ嶋ニ魯西亜人立テシ十字佛ノ図



三四寸ホトノ角物ニテ高サ二丈余所〻ニ文字ヲ彫リ立テ朝暮拜ス

此文字ケレスツトアリ

魯西亜人イシュヱ所持十字銅佛ノ図



唐銅ノ鋳物ナリ朝夕之ヲ拜ス是ヲケレスツトニ云

ヱブカ蝦夷人ノ所持スル所モ亦此物ト同シ

邊要分界圖考巻之四

近藤守重輯

粘弗加考

東海ウルツプ嶋ヨリ前路シモシリ島ヨリカムサスカ地方ニ至ルマテ凡十餘島嶋ミナ已寅ニ流ル世ノ所謂千嶋ニシテ蝦夷人之ヲ稱シテチユプカト云チユプカト八日出處ト云ノ義十リ蝦夷人八日月ヲ指テチユプカムイト云魯西亜国主ヲ稱シテチユブカカモイトノト云魯西亜夷人ヲチユフトノト云共ニ日出ル處ノ人ト云コトリ一説ニ初ロシヤ人諸島ニ来ル時夷人ニ

語テ曰我国ノ帝王ハ日月ノ尊カ如シト故ニ夷人チユブカカムイト稱シ其屬嶋ヲチユブカト云ト亦通
蠻書ニ紅毛千七百六十八年刻スル所ノモノ之ヲクリル諸島ト云
蠻書ニ云カムサスカノ南ノ出崎ヨリ南西ノ日本ノ方ニテ大小ノ島連續シタルモノ大凡二十五日三十六其餘ハ詳ニシカタシカムサスガニ近キハ皆魯西亜ニ屬ス其島大ナルモノ十六ハナルモノ無數古昔ミナ我蝦夷ノ屬嶋タリシニ八十年前正德中魯西亜人カムサスガシ併呑シテヨリ漸々ニ諸島ヲ蠶食シテ三十年前ヨリシモシリ迫シ服従シテ其嶋々ノ名ヲ改メテ魯西亜ノ名

トナシ二十年前ヨリ夷人ノ風俗ヲ易ヘテ魯西亜ノ風俗トナシ往古ヨリ日本ニ屬セシ蝦夷人ヲシテ髪ヲ辮ミ帽子ヲ被リ股引ヲ用ヒ鼓ヲ穿チ鉄炮玉薬ヲ與ヘ魯西亜人ノ言ヲ使ヒ魯西亜ノ佛ヲ頸ニ掛ケ魯西亜ヨリ役人並ニ教法師シテ教法師ヲ夷人ハヨウロウシイレヤムトニ時々諸嶋ニ至リ撫順セシメ其夷人モ尽ク魯西亜ニ貢ヲ入ルニ至ラシメ十年前ヨリウルツフ島ニ到リテ土着シ傲然

トシテ去ラサルニ至ルカムサスガハクルムセノ
國地ニシテ本我蝦夷ノ種族ナリ其地
今魯西亜北海ノ要津トナル嘆スベキニ
アラズヤチユプカ諸島ノ地理前輩ノ図
書大抵疎漏少カラス天明中最上常矩
嘗テウルツプ島ニ至リ魯西亜人イエユニ
ケタニ邂逅シテ其大略ヲ得タリ然レモ未
タ其詳ナルヲ得ス寛政十二年守重奉
命シテエトロフ嶋ヲ按察シ（エトロフ嶋モ古来日本人往

キシテ更ニナシ寛政十年守重初テ此嶋ニ
渡リシハ前後日本人渡海ノ四度目ナリ其
時守重最上常矩ト共ニ此嶋ヲ見聞キ翌十
一年海路ヲ開キ十二年山田嘉元ト廻船ニ
乗テクナシリ嶋ヨリ同嶋トリカニイエ
着帆シライトエ會所ヲ立ツ是レ此嶋日本ノ船
シ通シ日本ノ家ノ魯西亜人建ル所ノ十字ヲ
ヲ立シ初ナリ
倒シ是ヨリ前ロシヤ人イエユエトロフエ
七年在留シ十字ヲ立テ夷人ニ法ヲ教
ヘ夷人ノ中其佛ヲ受ケ其風俗ヲ変ズルモノ有ル
至ルエトロフ嶋シヤルシヤムノ夷人ハウ
レビト云モノハ髪モ魯西亜ノ風トナリソ
ノ佛ヲ信シ符咒ヲ受ルニ至ル又夷人ニ名
ヲナヘテホウナンセト改ルモノアリ同寫カムイワツカライ
ニ於テ木ヲ立テ標トス翌年エトロフ嶋ヲ

新開シ魯西亜人授ル所ノ佛ヲ棄シメ魯西亜人変スル所ノ風俗ヲ改テ本邦ノ風俗トナス　ヱトロフ嶋ハ既ニ我版図ニ入レハ此ニ載セス然レトモ寛政十二年初テ日本船ヲ通シ渓場ヲ開キシハ東都ノ　御威光海外ニ溢ル、所ニシテ北條ノ世伊豆ノ八丈ヲ開キシ以来初テ開嶋アリシ　ナルヘシ今ハヱトロフモ東夷一二ノ良土トナリシヤナラ會所トシテ渓場十七八ケ所ニテ開ケタリ寛文十二年十二月伊勢ノ船志摩ノ鳥羽ヨリ開帆シテ洋中猛風ニ逢テ漂流シセケ月ヲ経テヌ百余日ニシテ一大国ニ至ル則ヱトロフ嶋ナリ陸ヱ上リテ夷人ノ部落ヱ行ントスレトモ許サス固ク諸ヘハ弓ヲ引テ之ヲ御ク遂ニ行コトヲ不果ト新井君美此地ヲ論シテ北亜黒利カクルウンラント地方ノ諸州ナルヘシト云リ正徳中北アメリカト思ヒシ地モ今ハ東都ノ　御徳化ニ依テ其地ヲ開キ其夷人ヲ撫育スルノミナラス儼然タル北門ノ鎮鑰トナリシ一国家ノ慶トニヽヘシ時ニチュプカ夷人イチヤンケムシ来テ投化スイチヤンケムシハラシヨワ嶋ノ産ナリ居ル一頃アツテ其子イモンケセツクルト父子共ニ本邦ノ風ヲ仰キ遂ニ其俗ヲ変シテ帰化ス則イチンケムシヲ改テ市助ト名ク市助曽テカムサスカ地方ヱ往来シ能ク針路ヲ辨シ其嶋嶼碁泊ノ在ル所ト風順汐路ノ宜キ所ヲ知ル於是守重

米ヲ紙上ニ聚テ嶋形ヲ作ラシメ詰問講究
シエトロフノ酋長ルリシビ及イワレキイ
コルテキアツケシノ酋長イコトイ及バツ
コ其他シハ〳〵チュプカ諸島ヱ往来経過
セル夷人ハウシビ・タカロク・イベツケウシ等ト
再三討論シテ初テ諸島形勢ノ詳ナルヿ
ヲ得タリ則図記ヲ作リテ當時進呈ス
今其餘稿ヲ摘テ加ルニ蠻人ノ説ヲ以テ
シ邦弗加考ヲ作ル

ウルップ嶋 此島ウルップト云魚多キニ因テ名ク松前人ハ此島ヲ獵虎島ト云蝦夷人ノ所謂ラッコ島ハ別地ニシテ此島ノ東洋ニ在リ下ニ見ユ此島魯西亜人改名ケラーセナツサトイト云南ニ港アリ夷人ハワニナウト云魯西亜人ハシヤバリント云獵虎場南ハレバギン北ハゴロレント云

此嶋今本邦ト魯西亜ト分界ノ地トナレリ
エトロフ嶋カムイワッカライヨリウルップ嶋
ヲカイワタラ迄渡海凡十六七里寅ニ當ル順風
ハ未申ヲ吉トス嶋ノ周廻凡七八十里モアルベシ
港泊ハ東辺ハトボ 深凡六尋 西邊ハワニナウニ在リ

此地古来ヨリエトロフ。クナシリ。子モロ。アツケシ
四部ノ夷人ノ獵虎漁場ニシテ魯西亜人モ古来
入會獵虎漁セシ所ナリ然レ𪜈土着ノ夷人ナ
ク夏秋ノ間集リ漁スルノミニシテ時トシテ越
年スルモノモアリ魯西亜人ハ古来ヨリ多ク此地
ニ越年ス三十年前魯西亜人ト蝦夷人ト此島
ニ於テ爭闘アリシヨリ後シモシリ前路ノ夷人
盡ク魯西亜ノ屬トナル寛政七年魯西亜人一時
ニ六十人渡来漸々ニ帰國シ其中ケ子トブシ

其外十七人居残リテ子今テ此嶋ニ在留シ女三人
アリ生ム所ノ子既ニ七八歳ニ及ベリ魯西亜人初ハ東辺
トボニ居ル今ハ西辺ワニナウニ見ユ其産物ハ獵虎ヲ
エ移ルロシヤノ始末下ニ
第一トス夷人ハラツコヲ抱ニ弓ニテ射ヤスニ
テ突ク魯西亜人ハサシ網ヲ張リ鉄炮ニテ打
ナリ又ニノト云此腸ウニトナル貝多シ獵虎ハ好テ此貝
ヲ食フ其他海豹鮭鱒ウルツプ近来名ヲ與ヘテ紅鱒ト云嶋ノ名
モト此魚多キニ依テ名ツク雨鱒イルカ鯨シキナ是ハウルツプヨリチリ
ボイエノ海中ニ居ル鯨ノ最大ナルモノナリ海
中脊ヲ出ストキハ丘山ノ如シト云其牙長五六

寸圍七八寸アリノ類其木ハ樺ハシ五葉松イタヤシ
ユイニノ類其山ハカビシヲヌブリ（エトロフヨリ見ユ）ベワヌ
ブリアダツヌブリ其周廻ハ西邊ハラカイワタ
トラシレベツ（ナブトラシレヘツ迫）一日路（ヨリロツナシ迫）ヨリチブ
一日路（ウツネツブヨリシレムヨ迫）一日路（ロツネシヨリウ
ツネウブ迫）
ラカイワタラ一日路合四日路東邊ハ
ヨリトボ迫（リアトボヨリアダツ
リアトイヤ迫）一日路（アダツトイヨ迫）一日路
ルツプ嶋拝撿ハ天明六年官初テ吏人ヲ
差シ（山口某最上常矩）寛政三年官又吏ヲ差シ（最上常矩和田某）

其後松前ヨリ一度人ヲ差シ享和元年
官又吏人ヲ差シ（富山保高深山某）倶ニ其地ニ於テ
魯西亜人ニ邂逅スト云
ヤンゲチリポイ嶋（魯西亜人改名セムナツサトイ）
ウルツプ嶋ヨリ渡海凡二十里順風ハ子ヲ吉ト
ス嶋ノ周廻一日路ト云港泊ナク巖石ノ上エ
寄リ木ヲ渡シテ夷舟ヲ揚ケ置ナリ木ハ一切
ニナシ草ノミ生ス魚モ少シ唯エトピルカト
云鳥ノミ（エトハ鼻ピルカハ美ノ夷言ニシテ毗鳥ノ嘴赤ノシテウツクシキニヨリテ名ツク）

夥シノ鳥ニテ地ノ見エサルホドニ群飛シテ手
ヲ以テ容易ニ捉得ベキホドナリ夷人此嶋エ
渡レハ此鳥ノミヲ食料トシ其骨ヲ拾テ薪ト
ス此嶋ニカムイワッカト云ヘル泉アリ岩砂ノ
間ヨリ僅一碗ホドヅヽ涌出ル色香トモ全ク
辛キ酒ノ如シ久シク酌ミ置ケバ甘クナル
其側ニテ酒ノコト噂スレバ忽チニ水涸レテ
又別ノ所エ涌出ルナリ酒ヲ釀セシ桶ヲ持
テ行キテモ泉出ズト云実ニ奇水ナリ魯

西亜人此泉ヲ名テキスローメト云蛮書ニ云クリル諸島ニ酒泉ヲ出ス島アリ蝦夷人来テ之ヲ汲テ還ルモノアレモ海上ヲ経ルニ至テ悉ク常ノ水ニ変スルナリ
此酒泉ノ外ニ水一滴モナシ又カヂコロト
云島アリ大サ燕ノ如ク羽ハ白黒ナリ之ヲ
捉レハロヲヨリ油ヲ吐出ス此鳥蛮国ニ又カモモアリト云
イヲカプト云鳥ハ羽黒クシテゴメノ如シ此島
モ古来エトロフ夷人主々猟席漁トシテ渡海
スル所ナリ
レブンヲリポイ嶋レプシトハ夷語ノ沖ト云フナリ此島沖ノ方ニ

此島大サヤンゲニ同シ獵虎アリ（アルヲ以テ名ク）

ニカンル、嶋（魯西亜人改名セウセ）

此嶋大サナリボイニ同シ獵席トゞ有リ木ナシ夷人此島ニ至レバエトピリカ鳥ヲ捉テ食料トナシ其骨ヲ焼テ薪トスエトピリカ鳥夥シクシテ内地ノ鮭鱒ノ多ガ如シ此島モ古来ヨリエトロフ夷人獵席漁場ナリ

ラッコ嶋

此島ハエトロフ嶋ウルップ嶋ノ東洋ニ當レリ晴天ニハ海上遥ニ見ユルヿアリ此地ハ本クルムセノ夷人ノ島ナリシニ近来魯西亜人ニ併呑セラレソノ風俗モロシヤニ変セリ此島ニ夷人多ク住ス魯西亜船ニハ毎度此嶋ノ夷人来リ居ルナリ魯西亜人ウルップヨリ此島ニ渡海スルニハアイ（北風）ナリシモ風ニテウルップ嶋ワニナウヨリ出帆シテ真帆ニ飆ルナリ此嶋ノ夷人ハ皆鼻ニ穴ヲ穿チ環ヲ通ス言語モ通ジガタシ魯西亜人ヨリ文字ヲ教ヘ物ヲ書

ナリ今モ其夷人一人ウルップ魯西亜人ノ所ニ来リ
居ル名ヲキモヘイト云ラツコ地ヨリモ快晴ニハ
ウルツプ見ユルト云キモヘイウルツプニテ其本國ノ
舟ヲ造ル其制舟ヲトヾノ皮ニテ張リ袋ノ如クニ
拵ヘ中ニハ木ヲ骨ニ入レ夷人一人乗リテ袋ノ口テ
ヲシメ切リ水ノ入ラザルヤウニシ櫂ニテ左右ヘ搔キ
走リ陸ヱ上レバ骨ヲ去リ皮ハ畳ミヲクナリ此
舟ヲ夷人ハトンドチツプト云魯西亜人ハマイタレト
云クナシリノ酋長ツキノイ嘗テ云クルムセノ舟ヲ

見シコトアリシニ小舟ヲ皮ニテ包ミ巾着ノ口ノ如ニ
シテ其口ヱ身ヲ容レ皮袋ノ口ヲシメ切リ底ヱハ
石ナトヲ入レ舟ヲ重クスイカナル大浪ニテモ鳥
ノ浮フカ如ク舟モ人モ波ノ中ヱクヾリ入リテ又
浮クヿ自在ナリクルムセノ人此舟ニ乗リ沖ニテ
鳥ヲ逐シヲ見シガ両手ニハ弓矢ヲ持テ舟ハ櫂ヲ
動シタリ思フニ袋ノ中ニ糸ナドノ仕掛ケアリテ
足ニテ櫂ヲ動カセシナラントアツケシ酋長イコト
イ并イチヤンケムシ云クルムセノ夷人ハトイチ

セコツチヤカムイノ裔ナリ老夷傳ヘ云古シ夷
地ニトイチセコツナヤカムイト云モノ有リ其身
甚短シ皆穴居ス夷地開クルニ従ヒ漸々ニ奥地
エ入リ遂ニ其種族相率ヒテ筏ニ乗リ東洋ノラツコ
嶋エ往キテ其部落ヲナセリト又カミシヤツケノニ
モクルムセノ種類アリ下ニ見ユ
シモシリ嶋 魯西亜人政名セムナツサトイ
此嶋ウルツプヨリハ少シ小ナリレフンチリボイヨリ
シモシリ嶋モヨロエ渡海ス此渡リノ汐路ハヱトロフノ渡ヨリハ弱シト云ハロシノ

ツノ汐ハ強シ順風ハ西ヲ吉トス順風上浮ナレハ早天ニ
チリボイヲ発シカシ尽シテ舟ヲ行リ黄昏ニシモ
シリエ着船ストエ計ルニ三十里内外モアルベシ
此嶋ノ前路ミナ本邦ノ属夷ナリシニ三十年前
ヨリ魯西亜ニ服従シソレヨリ二十年前以来夷人
悉ク魯西亜ノ風俗ニ変シテ男女トモ髪ヲ組ミ帽
子ヲ被リ股引靴ヲ着シ佛像ヲ掛ケ鉄炮ヲ持ツ
魯西亜役人モ時々来ルナリ寛政十年ロシヤノ役人三人此地ニテ来リ越年シ翌年帰国ス本国ノ頭役替リタルコトヽ金銀ノ吹キ直シアリシコトヲ知ラスル為メニ来ルト云 内地

ノ夷人ハ此ヨリ前路ヲ指テチュプカト云其夷人ヲ
チュブカアイヌト云古来ハ内地ノ夷人モ常ニ此邊
エ往来シテ既ニアツケシノ酋長イコトイ先祖ハ
シモシリノ夷長ニテウセシリ邊ニモ其親族アル由
ナレモ久シク中絶セシニ近来ハ軽物（カルモノ）獺帛鷲羽ノ類ヲ指テ軽物ト云少キニ依テイコトイ等ハ此邊ニテモウメレ
家来ナリヲ遣リテ越年サセ獺帛就鳥羽ヲ取ラスル
ナリ又シモシリ邊ノ夷人ハ古来ウルツプニ於テ
内地ヨリ渡海セル夷人ト交易シ軽物ヲ持来リ
テ夷人ノ宝トスル行器盃碗鍋鐺小刀古着獺狐
皮酒煙中類ト交易セシニ今来ハエトロフ閑島ヲ
聞テ同所ニテモ来ルナリ此嶋ノ夷人ハカムサス
カ迫往シモノアリ昔ハシモシリニ夷人多カリシガ
今ハ甚少シラシヨワ并ウセシリノ夷人モ冬ハ此地エ
来リテ越年シ軽物ヲ捉ルナリ獺帛玄狐就鳥ア
リ鱒鮭ハ無シシリコマト云魚ノミ多シ夷人
ハ草根ト魚鳥トヲ食ス着モノハ鳥ノ羽犬ノ皮
又キナト云草ヲ編テ着モノトス按ニ禹貢ニ島夷卉服ト云ハコノ

類ナルヘキカ此嶋ヨリ前路ハ夏中モ雁常ニ居ルナリ
嶋ノ東南ニ港泊アリ其山ハアンチウシイタン
キライトエトクシリナド云ルアリシモシリヨリケト
イ嶋エノ渡リハ至テ近シ半日ニテ着船スヘシ
風順上浮ナレバシモシリヨリウセシリ迫モ一日ニ
至ルベシ

ケトイ嶋 魯西亜人改名ベツナツサトイ

小嶋ナリシモシリ嶋渡海ハ丑ヲ順風トス此渡
リ汐路強シ夷人ハ住セズラシヨワヨリ冬中来
リテ鷲ヲ捉ルナリ此地猟虎アリ

ウセシリ嶋 魯西亜人改名セテイナツサトイ

ケトイヨリ未ノ風ニ渡ル小嶋ナリラシヨワ迫至
テ近シラシヨワノ夷家見ユルト云夷人住居ス西邊ニ港泊アリ
此島鷲甚多シトヽモアリ雁ハ彩シク手捉ニナ
ルベシ其中モ常ニ居ル雁ノ卵ヲ拾ヒ吹ニ入シ三吹
モ四吹モ脊負テ帰ルホドナリ内地ノ夷人云嘗
テウルップ嶋ニテウセシリノ夷人ノ来リシヲ見シニ
雁ノ羽ヲ衣ニ拵エ海豹ノ皮ヲ縁ニツケ筒袖縫

クルミニ仕立着スルトキハ頭ヨリ被リテ着シ皮ニテ作リシ股引ヲハキ膝ニテ掛ル韈ヲハキ居タリ

ラシヨワ嶋 魯西亜人改名テリーナツサトイ

小島ナリウセシリヨリ午ノ風ニテ渡ル南ノ方ニ港泊アリ此嶋夷人住居ス魚類ナシ鳥ト草根ヲ食トス小嶋ユヘカ氣候ハ至テ寒シ然レモウルツプ邊ト違ヒ冬モ氷ハルコナシ歳ニヨリ氷流レヨルコトアリ木ハ樺ハンノ木多シ白キ鷹アリ

エトヒリカハロ 大サ鴨ノ如ク黒シ コロミヽト云鳥至テ多シ

獵所アリ夷人ハ皆穴居ス其制穴ヲ掘テ上ヘ木ヲ梁ニ渡シ草ヲ蓋テ土ヲ掛ルナリ内ヨリハ階子ヲカケテ出入スエトロフ嶋ニ魯西亜人穴居ノ跡アリスイチヤンゲムシエトロフニ居ルモ穴居セリ 投化夷人市助ハ夷名イチヤンゲムシ後ニ今ノ名ニ改ム此嶋ノ産ナリ其着スル所ノ衣ハエトヒリカノ鳥ヲ丸ムキニシテ其皮ヲ羽ヲ内ニシテ幾ツモ綴リ附ケ筒袖ニ拵ヘ襟ト袖ロト裾ヘアザラシノ皮ヲ細ク附ケ胸ト裾

エヱトピリカノ嘴ト犬ノ皮トヲ文飾ニ附ケ魯西亜人ヨリ得タリトテ木綿ノ股引ノユルキモノヲハキアザラシノ皮ニテ拵ヘタル靴ヲ穿チ頭ハ髪ヲ左右ヘ分ケテ髪ヨリ三ツ打ニ組ミ下ケ其上ニ帽子ヲ被ル帽子ハ裏ヲ狐皮ニテ作リ表ハ皮ナリ是モロシヤヨリ得シ由ニテ鉄炮ヲ持テリ其鉄炮長サ三尺余火打仕掛ナリ硝ハ魯西亜人ヨリ得ルト云此嶋ノ此風俗ニナリタルモ二十年前ヨリノ事ト云嘆スベキノ至リナリ　市助ノ子ヲイモンケセ

ツクルト云十六七歳ナリ市助ハ四十歳余ナリチユブカ夷人ノ風俗ヲ変シタルハ何頃ニヤト問フニ市助若年ノ頃其子ヨリ少シ生長ノ時蝦夷人ト魯西亜人ト戦ヒシコトアリソレヨリ後悉クロシヤノ風俗ニナリタリト云　其妻イナンシヤウシヽツハシヤシコタンノ産ナリ風俗ハ夫ト異ナルヿナシ頭ニ帽子ヲ被リ其上ヲ更紗ノ切ニテ包ミ後ロエ下ケ鳥皮ノ衣ヲ着シ股引ヲハキ唯唇ノ廻リト手エ墨ヲ入レシハ夷婦ノ如シ其子イモンケセツクル　十六歳許リ頗ル頴悟ナリ風俗亦同シ胸間ニ十文字ノ鉄物ヲ掛ル是ヲケレシタト云魯西亜教師ヨリ與ル所ナリト云イチヤン

ケムシ亦佛像ヲ所持ス船中難風ノ時ハ此像
ヲ祈ル共ニ魯西亜人ヨリ受ル所ナリト云父子
三人ウルップ嶋ヱ来リ魯西亜人ノ所ニ居タリ
シニヱトロフ開嶋ヲ聞テヱトロフノ酋長ノ歸
船ニ搭附シテ寛政十一年投化セリ其夷ロシヤ
人ノ所ニ従ヒ居シ故カ頗ル機智アリ能ク方
針ヲ用ユル事ヲ知ル此嶋ヱハカムサスカヨリ魯
西亜人年々来リ又ヨウロウシイシヤムト云人
時々来ルナリヨウロウシイシヤムハ魯西亜人

トハ風俗モ違ヒ蝦夷ノ如ク髯アリ着類モ別ニ
テ錦金入ノ羽織ノヤウナル綺麗ナルモノヲ着ス
チュプカムイノ方ヨリ魯西亜国主命ゼラレシ由ニテ夷
人ドモ銘々残ラズヱ十文字ノ少サキ鉄物ヲ授ケ
頭ヱ下ゲサスヲヲケレシタト云是ハ夷人ノ守護ニ
テ此ケレシタヱ祈レハ漁猟モ多クナリスロシヤ
人ノ中暴悪ノモノ有レド此ノ鉄ヲ掛クレハ殺ス
コナシトテ與フルナリ又夫ナキ女ヱハヨウロウシ
イシヤム媒妁シテ夫ヲ持タセ女ノ帽子ヲ與フ

フルナリラシヨワ夷人ハ獵所皮玄狐皮等ヲ持
チカミシヤツケ迫往キ魯西亜人エ貢ニ出スナ
リ但クシユンコタン迫往キテ同所ノ夷人其皮
ヲ受ケ取リラシヨワ夷人一両人乗組カムサス
カエ往キクシユンコタンノ夷人ヨリ取次テ魯西
亜人エ出スナリ チユプカノ夷人獵漁スルモノハ
魯西亜人ヨリ鉄炮玉薬ヲ得ルコナリ鍋ハウ
ルツプニテ交易シテ得斧鐺ハ魯西亜人ヨリ得ル所
ナリ此地ノ夷人 チコイ チユイト云モノハ魯西亜人
ヨリトヤント云役名ヲ附ケ チユフカノ嶋々ヲ支配ス
アツケシエ魯西亜人往キシトキ通詞トナリテ往シ
ナリ魯西亜ニトヤント云役名アリスヤシヤラルト云
役名アリトヤンハ乙名ノ如クヤシヤラルハ小使ノ
如シ近頃ハトヤンニハ チコイ チユイヤンヤラルニハ
シレイタエリヤナト云夷人アリキ昔内地アツケシ
ノ夷人此地エ来リ魯西亜人ト爭鬪シ半ハ殺サレ
半ハ残リタルヲ魯西亜人ニ服従セハ殺スニシトテ
悉ク魯西亜ニ従ヒキ又此地エ春ハシモシリ夷人

来リテ草根ヲ取リ貯テ糧トスラシヨワヨリモトワ迫
ハ早天ニ出船シテ昼ハ著ス汐ハ強シ

モトワ嶋 魯西亜人改名シリンナワサトイ

小島ニシテ尖山ノミナリラシヨワヨリ渡海ハ引汐
ニハ午ノ風汐立ニハ未申ノ間ノ風ヲ吉トスモトワ
ヨリラックワキエハ近シ一日ニ往返スベシ

ラックワキ嶋 魯西亜人改名テヱナワサトイ

小島ナリモトワヨリ午ヲ順風トス北ノ方ニ港泊ア
リヱハイト迫ハ遠シ早天ニ出帆シテ薄暮ニ著船ス
汐路強シ

ヱハイト嶋

一名コタヌンモシリト云夷人住居ス東北ノ方ニ港
泊アリ又此嶋ノ東ニチロモシリト云アリ至テ小
島ナリヱハイトヨリシヤシコタン迫近シ一日ニ往返
スベシ

シヤシコタン嶋

南北ニ港泊アリヱハイトヨリ午ノ風ニテ渡ル夷人
住居ス嶋中ニ湖アリクトニシタリ。ヱゾル。ヒンナト云

山アリ投化夷人イチヤンゲムシノ妻ハ此嶋ノ産ナリ此嶋ノ西北ニヱカルマト云小島アリ

ハルシヽコタン島 魯西亜人改名テヱアトイ

小嶋ナリシヤシコタンヨリハ午ヲ順風トス西ノ方ニ港泊アリ此ヨリヌシヤシコタンエ一日ニ往返スベシ此嶋ノ西ニヽサワチヨト云小島アリ

ヌシヤシコタン島 魯西亜改名フトロイ

一名シン子コタン此島周廻船路二日路モアルベシ夷人住居ス チホヤニヽイル シクブシ ニ村 ハルシヽコタンヨリ未ノ風ニテ渡ル南ト西ニ港泊アリ夷人住居ス此ヨリポロモシリ迫至テ遠シ早天ニ出帆黄昏ニ着岸ス汐路ハ中ホトヨリハ強カラズ此嶋ノ西ニヽカンルラシト云小嶋アリ

ホロモシリ嶋 魯西亜改名セリモイ

大島ナリウルツブ嶋ホドモアルベシヌシヤシコタンヨリ己午ノ風ニテ渡ル南ニ港泊アリ夷人ハベツホアルモイニ村ニ住居ス山ハシヤシリ。モソチウ。チヤリンデキ。ラプコト。ナド云山アリチヤリンキノ

麓ニ湖水アリ東ノ方ニ名山アリ山ノ頂左右ニ張リ出テシモクノ如ト云此ヨリクシユンコタン迫至テ近シ互ニ声ヲ通スベキホドナリ此西北ニヲヤツコバケト云小嶌アリベツポノ南ニラウテシルモイレヨ。アワイレヨト云小嶼アリ

クシユンコタン島

周廻舟路二日モアルベシモヨロポト云港泊アリ魯西亜船毎年此處ニ越年ス北ノ海濱ニ湖水アリ其側ニ夷人住居ス此ヨリカムサスガノ南ノ出崎レブンライシヤシリ迫至テ近シ木ノ葉見ユルホドナリ午ノ風ニテ渡ル此辺ニベツポ。トフルケト云ニ嶋アリ共ニ夷人住居スト云其地今知ベカラズ

カムサスカ地方又カミシヤアツケト云

此地モト蝦夷クルムセノ部落ニシテ我日本ノ属疆ナリシニ正徳五年魯西亜人併呑シテ今ハ彼國北海ノ要路トナレリウルツプヨリシモシリヲ歴此ニ到テ渡海凡二百五十余里魯西亜人云九千三十エルスタト今本邦ノ里法ヲ以テ之ヲ計レバ二百八十六里余ニ當ル然レトモ蛮書ノ図ニ依テ之ヲ測ルニ凡二百五十里許ニシテ其往来セル夷人ノ云トコロモ甚遠カラス其渡海ハクシユンコタンヨリ午ノ風ニテ

此地ノ南ノ出崎レブシライシヤシエ渡リソレヨリ
地方ニ沿テ搔キ送リ凡四五日ニシテベストワアビ
ルスコイニ至ルベストワアヒルスコイハ魯西亜人ノ
改メ名ル所ニシテ本トボンルヽカト云ヒカムサスガ
入海ノ大港泊ナリ魯西亜人此地エ砦堅ヲ築キ
土手ヲ築キ海口エ所々大筒石火矢ヲ備ヘ魯西
亜役人一人外六十人ホト在留シ穴ヲ掘テ家トナス
其穴居至テ深ク廣シ梯子ニテ上下ス地上ヨリ之ヲ
臨メハ其人小兒ノ如ク見ユルホドナリ魯西亜船ハ
毎年数度ヲホツカ邊ヨリ往来シ二艘ツヽ此川ニ
テ越年ス
クルムセ夷人ハカムサスガ地ニ住居ス其地ヲ惣テポ
ンル、カト云今魯西亜人改メ名ヅケテベストワア
ビルスコイト云守重嘗テ東夷地アツケシ并サルモン
ヘツニ於テ其酋長等ノ語ヲ聞ケリ云昔シ義経朝
臣夷人ハラキ、ムイト云辨慶夷人ハシヤヽイクルト云サル川ノ上ハイビラ
ト云地ニ居テカジキトラシノ嘴ヲ聚テ柵トナシヌ
下武川キロ、井山中エ往来セラレシニカニケシイ

ラツプト云ヘル金色ノ羽ノ鷲通リ𠀋ヲ見テ相共ニ
島ヲ逐テボンル、カノ国ニ至リエフト此ボンル、カ
ノ国ノ事老夷ニ問ヘモ知レザリシガチユブカ夷人
イナヤンゲムシ投化ノ時カムサスガ地方ノ事ヲ問タ
レバカムサスカノ海口モトハボンル、カト云クルムセノ國
ナリ今ハ魯西亜人改メ名テベストワアビルスコイト
云ト始テボンル、カノ國名ヲ発揮セリクルムセハ本
トイナセコツチヤカムイト云ヘル往古蝦夷地ニ居
ケル一種ノ夷人ノ末裔ニシテ夷地開ケ夷人聚ニ
レタカツテ奥地ニ遁レラツコ嶋并カムサスカ地方ニ
往テ部落ヲナセリ其人物ハ蝦夷人ニ異ルコトナ
ク髪眼トモニ黒シ今皆魯西亜ノ風俗トナル其船
ハ皮ヲ以テ包ム前ノフツコ嶋ニ見エタリ此皮船ノ
コト蝦夷人ハトンドチツプト云魯西亜人ハ一イタレ
ト云又魯西亜人ノ船木ニテ造リ傳馬船ノ如ナルハ
蝦夷人ハロクンドト云魯西亜人ハボロンヨンナイト
云拇ニ魯西亜志並東砂葛記ニ云又一種ノ夷
人アリタリレスト云カムシカツトノ南ノ出崎及

南ノ諸島ニ住ム大抵カムシカツトノ人物ニ侶タリ
ト云ヒ此地ノ人ハ惣身ニ毛ヲ生ズルヲ異ナリトス男
子ハ唇ノ正中ノミヲ黥シ女ハ總テ唇ニ黒キ黥ヲナ
ス男女共ニ耳ニ銀環ヲ懸ケ肘ヨリ腕ニデノ間ニ
種々ノ摸様ヲ入黒スルナリ衣服居所ハカムシカツ
トカニ同シ飲食ハ魚ト海獸ヲ食トス妻ヲ多ク
具ス其姦ヲ懲スヿ甚嚴ナリ祭ル所ノ神シイ
ニコウルト云是ヲ祭ルニ木シウスクケヅリヨリカケテ
幣ノ如シ蝦夷ノ所謂イナヲナリ獸ヲ殺シ皮ヲ取リテ備ヘ祭
ル肉ヲハ食用トス人死スレバ冬ハ雪中ニ理メ夏ハ
土中ニ葬ル

魯西亜ノカムサスガ諸島ヲ併呑蚕食セシヿ
本邦ノ書記ニ考ルヿナシ按ニ東砂菖記并魯西
亜志ニ云我 明暦寛文ノ頃カ魯西亜ノテラトツ
ト云人カムサスガニ漂着シテ僅ニ巡檢シタルヿア
リ魯西亜人イシユユ云千六百四十三年コヲフルト云モ
ノ初テ見聞ケリト按ニ千六百四十三年ハ我慶安二年ナリ畧合ス
即ソノ國ノ周圍ヲ廻リ見タリ其ヨリ後ハ誰アリテ
此地ノ事ヲ魯西亜ニ通知セシムル者ナシ然ル

ニコサツカノ人アトラソフト云者此地ノ要處ヲ見
タルヿ多シ則元禄十一年彼国千六百九十八年アタラソフ
一軍ヲ師ヒコーサツケン。ユカゲリ及コレーキヨリ
此地ニ至リ土人ヲ大半服セシメテ元禄十三年
彼国千七百年七月本国ニ帰ル其得タル所サベルノ皮三千二百枚ベイフル則ラツコセ十七獺四灰白色ノ狐皮十枚赤狐九十一ヲ帝ニ献ス正徳五年彼国千七百十五年再
ビ軍勢ヲ理シコスモスソコロフト云者シテカム
サスガ及ヒ近傍ノ諸島ニデモ伐チ従ヘリ其船ハ
ラホツコイ則ラホツカニテイルコツカノ南濱ノ名ナリノ小城ヨリ出帆

シテベンシニクスノ港ニ入テカムサスガノ北地ニ到ル
スラコツコイ海ヨリカムサスガノ城下ニモ着船スル
ナリ享保十六年彼国千七百三十年カムサスガノ人聚リ起
リテ魯西亜ニ叛ク幾ホドモナクシテ静謐シテ其
後永ク服従スベキ盟約ヲナシ其賦税ハ年毎ニ
人々サベル皮ベーフル獺席ナリ狐等ノ皮一枚ツヽ出ス」
蛮書セオカラヒイ云一千六百八十九年貞享十二年
子ルトレキンスコイノ内子ルトレキト云処ニ城ヲ築
キ支那ノ境ヲ堅ム此所ニ関ヲ屈ヘテ使幣ヲ

ヲ交ユ韃靼ノ古国ナリ一千七百十三年正徳四年カムサスカヲ
伏従ス一千七百二十四年享保十年センスコイニ城ヲ築
テ清朝ノ境ヲ堅メ交易シテ大ニ利ヲ得タリ同年
カビタン某カムサスガ遣ノ嶋ニ往テ是ヲ領ス蝦夷
人名字ヲ請ニ依テサンクトラウレンスト云名ヲ与
フ一千七百三十年享保十五年女帝アンナノ時反シ程ナ
ク又従フ是ヨリ後女帝ノ命令ニテ清朝ト日本トニ
通路シテ二国ノ強弱虚実ヲモ試ミ通船交易ノ
事モ謀ルベシト云又女主アンナノ命ニテ官人ヘールヘル

ヒア和蘭ゼイカビタン沖船ノ頭ト云フスハレンベルグト共ニ
南日本ノ地方ニ臨ム赤蝦夷カムサスガノ南ロシヤ領
スル外前路三十四島アリ船ヲ寄セ陸ニ上ラント
欲レモ島人サヽヘテ揚ゲス此時クルノ人ヲ船中ニ
乗スクルノ人曰グルトハカムサスカノ南嵜ノ地名ナ
リ此所ハ蝦夷ニ近シト而テ通弁分リ夫ヨリ善キ
島ニ到ル島人慈心アリテ能ク存恤ス此島能ク草
木ノ果ヲ出ス其産ヲ携来リテ与フ亦滞留スル
ニ更ニ怪ミズ亦二人議テ曰シイナ支那則清土ナリ

ヤツバン（日本ナリ）通路茲ニ在リト決ス

魯西亜本紀ニ云（我カ延享元年和蘭ウトレキトニテ刻スル所ノ書ナリ前埜憙飜譯スル所ナリ）元文二丁巳年諸臣會議シテ曰今主ノ廣德ニ頼テ近隣悉ク帰服シテ縱横宏達通セザル所ナシ実ニ宇内ノ太平ノ基ヲ開クト云ベシ曰テ尚クハアルカンゲルヨリ海船ヲ発シ北亜黒利加ノ地方ヨリ日本及支那ニ至ルニテ遠ク巡察シテ諸外國ノ方物ヲ交易シテ以テ万民ヲシテ太平ノ化シ被ラシメンヿヲ念フニ今此時ニ方レリト乃主コレヲ可ナリトシテ遂ニ海船ノ正司ベルヒク副司スバッレベルグ（此人和蘭ノカピクニヨリ出ル）ニ命シテ大船ヲ発セシム

是ヨリ初テ都下ノ大商国主ノ許容ヲ蒙リテアルカンゲルヨリ商船ヲ発シテ既ニ東方ニ到ル者アリ彼日本ノ近邊ニ在ラ其友人ナル船司ヘ贈リ名告文アリ即茲ニ附ス其文ニ曰

一日大韃靼（即北韃ノ東濱オコウコイナルベレヨリ出帆シテカムサツカノ南ニ在ルクリルト云島ニ到ル此ニ魯西亜ノ戍舘アリ吾船中ニ人ヲ少クフ有ルニ曰テ

彼館ニ請テ其土人若干ヲ借テ其ヨリ南ニ
行ク海中小島多シ日本ニ属シタルモ有ヨ
シナリ舶ヲ巡ラシテ之ヲ計リミルニ凡三十四
島アリ乃一島ニ近キテ碇ヲ下シ茲ニ上ラン
トス島ノ人種々ノ器械ヲ以テ之ヲ妨ク是
ニ於テ吾クリルノ人ヲ以テ此処ニ来ルノ仔細ヲ
通ゼシム島人其証ヲ見シテヲ求ム乃吾コレ
ヲ明ニ示ス彼仍テ其事ヲ審ニシテ後却テ
初ノ率爾ナルヲ謝シタリ吾更ニ行舶ノ備ヲ
設ケテ茲ヲ去リ又別ノ一島ニ到ル其島人甚好
意アリテ吾徒ヲ島ニ上ラシム此日大韃靼ヲ
発テヨリ十六日ニ當レリ此島沃土ニシテ諸果
木美ナルヿ他ニ異ナリ吾彼果実及其餘ノ
産物ヲモ多ク採テ舶中ニ收ノ置タリ
右八日記中ヨリ抜萃スル所ニシテ即吾目撃
シタル実跡且其産物ヲモ持帰リテ以テ究理
學ノ一端ニ供シトス此余交易ノ一事ハ之ヲ
畧ス尚此地ヨリ日本支那ニ到リテ将ニ吾魯

西亜交易ノ事ヲ図シトスル而已
此記事曾西亜ノ大商ノ輩須ク心ヲ用テ之ヲ
讀ベシ即今舶司スバワレヘルノ等日本支那ヘ通
路ノ海洋審ニシテ遠東外国ノ商船吾曾西亜
ノモスクワベテルスボルクアルカンゲルノ三都会ニ
聚リ来レコヲ欲ス先主既ニ数百万ノ賊ヲ散シ
テ四方ノ民悉ク聚リ乃曾西亜北地ノ東邊ニ至ル
ニテ皆吾城塁ヲ建置スルニ及ベリ況ヤ此通商ノ
事ニ於テハ立トコロニ之ヲ得ベキガ如シ然リト云
ヘモ但且時ノ至ルヲ期ベシ

日本人ロシヤエ漂流ノ事

宝暦三酉年（一ニ云延享元年ト然レモ天明五年飛弾屋某ノ書ニ三十三年前トアレバ宝暦三ヲ以テ是トスベキカ又一説ニ宝暦十二三年ノ頃ロシヤヘ漂流人アリテ今ニ六人存命シテ子アリ其国ヲ問ヘハ松前ト云ト疑クハ傳聞ノ誤ナラン）
奥州南部領佐井村仆内徳兵衛外十六人千二百
石積ノ新艘ニ乗組同年十一月十四日佐井ノ湊開
帆シテ難風ニ逢ヒ北方ニ漂流シテ赤人ノ国ニ漂着
ス徳兵衛ガ親族勝右衛門奥戸村伊勢屋安兵衛
親類利八大間村長松宮古湊伊兵衛長助等五

人今ニ存生シテ赤人ノ国ノ土人トナリ各所々ニ
住居ス利八ハカムサスガ土人日本ノ通詞ヒヨドロ
ト云モノ妹聟トナリ勝右衛門ハイルクツコイニ住
居シテ赤人ノ国王ヨリ銀銭二百文ニ抱ヘラレイル
クツコイノ有司トナリシニ男子ヲ生メリ此子諸人
ニ勝サリケレハ国王ヨリベイタラシンセイチヤト云
名ヲ賜フ天明三年ニ至リ十七歳ニナリシカ国王ヨ
リ大船ヲ造ラシメ水主七十四人ヲ添テ勝右衛門カ
子ヲ船師トシテコロシタラハンヱリスカイト云港ヲ

又羅紗猩々緋類影シノ空船ニ積ミ有シヱヘ盗ミ取リ

開帆シテ南方ニ針路ヲ求メテ帆セ出セリ蝦夷
ノ地方ニ赴キシカカラフト嶋ニ着シテ土人ノ為
メニ殺サレ船ハ流レテウルツプ嶋ノアタウトイニ
漂着シケリ時ニヱトロフ嶋ノ酋長ハツバアイノ
ト云モノヽヲ見テ船ニ乗リテ見ルニ無疵ノ死骸
一ツアリテ外ニ船頭水主モ見エス金銀銭隠シ置
キ其船ヲハ焼棄タリ然ルニ毎年猟所漁ニ
渡来スル赤人ノ船遠沖ヨリ幽ニ見ヘテ段々間
近ク頓テ此嶋ヱ着岸ト見ヘケレハ時ニハツパ

アイヌ思フハ赤人ノ大船焼棄テ船中ノ積荷物取隠シタルコト若シ露顕ニ於テハ船中ノ人モ我等殺シタルヤト疑モ掛ルベキヤトテ日和ノ善悪ヲモ見定メズ周章テ蝦夷船九艘ニ乗組百人余ニテウルップ嶋ヨリ出船シテヱトロフ嶋ニ遁帰ラント汐ノ急流ヲモ厭ハズ大難海ヲ渡リシガ折節暴風強ク遂ニ沖中ニテ浪底ニ覆没シテ溺死シタリケル赤人ドモハウルップノ嶋ニ著船シテ其邊ニ遁残リタル蝦夷人ヱ詰問スレバハツバアイヌト云モノ當嶋ヘ漂流ノ船中ニ死骸一ツアリテ船主モナケレハ荷物ヲ取隠シ遁去リケル次第具ニ告ケレハ赤人是ヲ聞テ大ニ怒リ此嶋ハ赤人蝦夷両国入合漁業セシ所ナレハ急難互ニ救フベキニ不法ノ仕方ナリトテ欝憤ヲ含ミケル　蝦夷双紙ニ載ス

天明二寅年伊勢國白子村神昌丸船主彦兵衛船頭幸太夫外十六人乗組同年十二月鳥羽出帆駿河沖ニテ難風ニ逢ヒ漂流シ翌卯年七月アヽ

シツカ嶌ニ漂着同所ニ西年滞留セシニ赤人此
嶋ニ猟所漁ニ来リシ船アリ其船ニ便乞シテ
同七未年八月カムサスカヘ着船同申年チキ
リヲ経テラホツカエ入津十一月ヤコツツカエ着寛
政元酉年二月イルコラツカエ着同三亥年二月ヲ
ロシヤノ城下子テルボルエ着女帝エ謁シ同十
一月城下出立同子年九月十三日ラホツカ出船
十月三日東蝦夷地バラサンエ帰着同五日魯西
亜船ニ乗テ子モロエ帰國ス子年ロシヤ人来朝
ノ始末ハ世ノ人皆
知ル処ナリ
故ニ畧ス

寛政五丑年奥州仙臺領石ノ巻若宮丸船頭清
兵衛外十五人同年十二月難風ニ逢ヒ翌年寅五
月アツカト云嶋ニ漂着卯年六月ロシヤノ船ニテ
シコウツカエ着ス文化元子年九月六日五人ロシ
ヤ船ニ乗テ長崎ニ帰国ス

魯西亜始末

魯西亜人ノ事蝦夷ハフーレシヤムト云夷言ニ
フーレハ赤キヿシヤムハ人ノヿナリ故ニ松前人

之ヲ稱シテ赤人ト云又赤蝦夷ト云是ハ往歳魯西亜人初テ蝦夷地ニ渡来セシ時ミナ猩々緋ノ服ヲ着セリ因テ夷人之ヲフーレイレヤムト云トエフ赤人ノ蝦夷地ニ来ルヿ記載ナケレバ其初ハ知レズ東蝦夷地モ古来ハアツケシ迫廻船往来シ夷人ト交易シソレヨリ前路ハ通船ナカリシニ四五十年前ヨリ子モロヲ開キ三四十年前ヨリクナシリ嶋ヲ開ク故ニ奥地ニ至リテハ本邦ノ人往来ナノ又夷人モ往来稀ナレハ委シキヿハ知リカタシ今蝦夷ノ語ル所ト松前人ノ傳フル所トヲ採録シテ其事由ヲ見ルノ一助トス

一説ニ寛永年間赤人初テアツケシニ三十人許リ渡来ストモ疑ベシ寺重按ニ元文四年奥州辺房州筋海上ニ異国船見ユ瀬海ノミノ銀銭ヲ得タリ長崎ニ送シテ紅毛加比丹ニ見セシメラレシニムスコウビヤ国ノ文字ナリト云是日本海ニ赤人船ノ来リシ始ムベ其後明和年阿波エロシヤ船来シリ詳ニ魯西亜ノ条ニ見

△翌年又争闘アリケレハ赤人トモ討負ケタリ

三四十年前クルツブ嶌ニ於テ又トロフ嶌ノ蝦夷人及シモシリヨリ前路嶋々ノ夷人一同カヲ合セ赤人ト争闘セシヿアリ其時ハ此方蝦夷ドモ討負ケタリ其後又トロフ嶋シモシリ前路諸嶋ノ蝦夷各其在所ノ嶋々ニ帰ケレハ赤人俄ニ襲来シテ尽クシモシリ諸島ニ討勝タリソレヨリ以来シモシリ前路ノ蝦夷殘ラズ赤人ノウタレ家来ナリトナル然レモウタレト成リシニテ其風俗ハ蝦夷ナリシガ近比ハ全ク赤人同様ノ俗トナレ

リ
二十年前以来赤人ヨリシモシリ前路ノ蝦夷
人ニ教エテ髪ヲ結ハシメ鉄炮玉薬ヲ与ヘ着類
マテモ盡ク赤人ノ風俗トナレリ（右二ケ条ハ卍トロフノナシリノ乙名ノ話ヲ記ス）
安永初年獵虎嶋ニ赤人六十人余渡来三ケ所
ニ小屋ヲ掛ケ其小屋ハ長十四五間高サ五六尺
ノ土手ヲ築キ上ニ桁ヲ揚ケ中ニ柱四五本立テ
棟木ヲ渡シ草ヲ以テ葺キ壁ヲ塗リ砂ヲカ
ケ小屋ノ内ニ床ヲ作リ出入ノ口ハ三ケ所ヲ土
手四尺ホドニ切開キクルリ仕掛ニ板戸ヲ建テ
窓ハ二三ケ所ニ明ケ住居スソレヨリ日々ニ海上ニ
差網ヲシテ朝夕小船ヲ以テ掛ケ試ミ網ニ入ル
獵虎ハシメ殺シテ又網ヲ張ルナリ赤人云ウル
ツプハチユプカムイ（魯西亜国ノ島ナレバ捉ル所ノ王ヲ云）
獵虎ハ殘ラズチユプカタトノニ出スベシ他ニ鬻ベ
カラズトヨトロフノ乙名ハツバアイヌ云此地ハ古
来カムイトノヽ島ナレバ獵虎ハニシバ役人ナリニ
ヨスナリ汝ホ此頃初テ渡来氣隨ナリトテ

爭鬪シ双方手負死人少カラズ其後イカナル
故カ和談シテ安永七年赤人初テノツカヽツ
プエ渡来セシ時ハクナシリ嶋ノ酋長ツキノイ
案内セリ赤人云国ノ名ヲロシイヤト云城
下ノ名ヲムスクワト云濱ノ名ヲカムサスガト云湊
ノ名ヲオホツコイト云
安永二三年ノ頃一説ニ安永九年ト云ウルップ嶌ニノ赤人
ト蝦夷人ト爭鬪セシ赴リハ夷人ノ室トスル太刀ノ類古木
ノ穴ニ隱置タルヲ赤人ソノ木ヲ伐取リ太刀
等ヲ見出シ奪ヒ取レリ夷人ハ償ヲ取ルベキ
トテ言ツノリ双方爭論ニ及ヒ両三年モ取合双
方横死ノ者モアリケリ
安永七戌年六月九日東蝦夷地ノツカヽツプエ
子モロノ内蝦夷船ノ加キ異船二艘ニ異國人乗組外
水先トシテエトロフ嶋ノ夷人一艘薄暮ニ渡
来シ湊近所ニ至リ鉄炮ヲ打ツ蝦夷人トモ驚キ
騒キケリ程ナクエトロフノ夷人上陸シテ全ク爭
鬪ノ事ニハ無之赤人トモ日本人ト對面シタ

キトテ渡来セル由云ソレヨリ赤人ドモ上陸シ濱邊エ仮小屋ヲ掛ケ扱赤人ノ通詞セルシモシリ島ノ夷人ヲ以テ云ケルハ蝦夷地ニ日本人詰合ヨシ兼テ承リ及ニヨリテ對面ノ事願フ所ナリト頃アツテ夜ニ及フ松前吏人（上乗役新井田某　目付工藤某　通詞林右衛門）異國人エ對面夜分ハ如何ユヘ翌朝逢ベキナリト荅フ赤人再三願ヒケルハ日本人此所ニ詰合フヨシ承及ニヨリテ遠海渡来不案内ナル當所エ来リシウヘハ夜中ナリトモ

對面ナケレハ安心セズ是非對面ノコト願フ由強テ訴ルニ依テ運上屋エ呼寄セ對面セリ則仮小屋エ帰リ其夜鉄炮用意セル赤人四五人其傍ニ夜番セルユヘ吏人ヨリ蝦夷人エ理不尽ナルコトセザルヤウニ令シテ赤人エハ安堵シテ休息スベシト云送リケレバ番人ハ引取ケリ翌十日シモシリ通詞夷人ヲ以テ赤人云ケルハ日本ノ産物ト交易ヲ望ミ少々仕入ノ荷物手本物持来レリ交易ノ事殊ニ願フ所ナリト吏人云

異國人交易ノ事ハ松前ノ指揮ナクテハ成ラ
サルヿナリ今年ハ帰国スベシ明年夏ニ至リ
エトロフ島ニテ有無ノ返答スベシトテ早々帰帆
セルヤウニ云ヤリケレバ十二日ノツカヒツブ出帆帰
島セリ其時赤人ヨリ松前領主エ音物書簡
ヲ送レリ其書簡音物ハ上来役松前エ持帰
レリ翌八年夏赤人エ去年ノ返答スベシトテ
松前ヨリ異国人應對ノ吏人ヲ出シケルニ順風
ナクシテ延着セリ赤人ハエトロフ島ニテ待居

タリケルガ黙止カ子クナシリ島ニテ渡来ノ処
何タル沙汰モナキニヨリスノツカヒツブ迫渡来待
居ケルカ一切ニ沙汰ナカリケレバ待兼ケルニヤ
漸々ニ進来リアツケシノ内チクシコイ迫渡来
セリ松前吏人ハ（赤人應對ノ為メ選スル所浅利某 古屋某 通詞三 松井某 ユ藤某 栄田某 右衛門林 右衛門）四月廿九日松前出帆南部佐
井湊ニ入津順風ナクシテハ八月四日迫滞船同七
日初テアツケシ着船ノ処ニ赤人トモ待兼テ
漸々押詰ノ来ル由聞之チクシコイ迫出張

リ赤人ニ對面セシニ日本産物ト交易ヲ願フ
由ナリ則吏人ヨリ赤人ニ諭シケル其國交
易ノ所ハ長崎一所ニ限リ其他ハ國法制禁
ナルニヨツテ何等ノ願アルモ叶フベカラズ以来
渡海無用ナリト云聞カセ且船中用意飯料
トシテ米十五俵酒煙草烟管等サシ遣ス赤人
ヨリ返礼トシテ上乗三人ニ砂糖三包目付二人ニ
二包相贈リ赤人ハ直ニ帰船セリ（以上三条ハ天明五年蝦夷地）
請負人飛弾屋ナル者ノ書付ト松前
通詞林右衛門ノ書付トヲ併セ載ス

安永八亥年渡来赤人ノ名　シンサバクン（頭立タル者ナリ髪ハ白苧糸ノ煤ケタルガ如ク眉毛ハ白シ上着ハ花色羅紗股引白天鵝絨笠黒ビロウド縁ハ獺尻皮ナリ皮ノ靴ヲハク赤人ハ日本ニ通詞ノモノナリヤツクコイノ髪ミナ赤白ナリ）　ヒバンテ（役人ナリト云上着ハカキ色ノラシヤ下着ハ花色ラシヤ股引カキ色ラシヤ笠ハ黒ビロウト縁ハ金糸太刀帯ス銀ノ鞘皮ノ柄鍔ナシ）　キシンコンテ（カムサスカノ人ナリ上着羅紗下着同シ股引ブヂ色木綿花色木綿下着ブヂ色木綿）　リヒントン（ハシタハノ人ナリ上着股引メリヤス被リモノ鼠色）　シリイタリ（此ハ蝦夷人ニシテ赤人ノ通詞ラス髪黒シ惣体ヒゾ人ニ同シ上着紺色ノ唐木綿下着モヘキ色ノラシヤ耳金ハナシ）

交易ハ四維
紗猩々緋桟留奥島更紗皮類藥種類牛馬鳥
獸類砂糖漬類何ニテモ好次第交易トシテ持渡

ルベキ由云（此一条ハ赤夷聞書ニ出）

天明三卯年ウルツプ嶋アグツトイエ赤人ノ大船一艘漂着ス内ニ赤人ノ死骸一ツ疵ヲ被テアリ外ニ金銀銭羅紗猩々緋類影シ時ニアトロフノ夷人ウルツプニ居ケルガ此船ヲ見テ船中ノ物ヲ尽ク奪ヒ取リ船ハ火ヲカケテ焼捨タリ松前及南部邊ニ赤人ノ産物種々出シハ此時ノ事ナリ其跡ハ赤人渡来シテ此事ヲ聞キ大ニ怒リケリ此事詳ニ漂流人ノ条ニ見ユ（此一条ハ最上常矩ノ記ヲ載）

天明五巳年赤人三人アトロフ嶋エ渡来シヤルシヤムトニ云所ハ七ツ半滞留シ寛政三亥年本國ヨリ呼ニ来リ帰国スト云其長ハ名ヲシメラントロヘイイシュゾヨフイシュヨト云イルコラツカノ人ノ由其次ハイワンエレコーイシュサスノスコイト云ヲホツカノ人ノ由僕一人アリ名ヲニケタト云イシュユ云ウルツプエ赤人多勢渡来セシニ船中ニテイシュユハ外赤人ヲ手荒クセシユヘ

恨ヲ生シ同船ナリガタク依テエトロフ嶋ニ逗留
ノ由ヲ云フ其後クナシリ迫渡来シ其時常矩
應對セシニ松前ヨリ長崎ニ至ラハ紅毛船ニ便
乞シテ帰國ヲ乞ト云ヘリシヤルシヤムノ家ノ
前ニ宗門ノ十字杭ヲ立テ夷人ニ宗門ノ苻咒
等ヲモ教ヘタリ又其国ノ傳馬ノ證文ノ由ニテ
大節ニ所持セリ方五六寸ノ紙ニ横文字ヲ
書キ下ニ細キ糸ヲ輪ニシテ結ビ目ヲ作リ此結
目二ツアルト二ツアルトニテ傳馬ノ差別アルト云

其糸ノ上ヘ彼國ノ蠟ノ判ヲ押シタリ此證文ヲ
持テハイスパニヤイタリヤ其外ノ諸蛮国ニ往キ
テモ往来滞ルコナシト云ヘリ後ニ夷人ノ言ヲ聞
ニ赤人ドモ云ケルハイシユ事数年エトロフニ滞留
遠キ嶌々ニテ見究メタリトニテ国王ヨリ賞セラ
レシト云
エトロフ夷人ハウシビト云モノ赤人ノ風シ学ビ髪
ヲモ長クシ（蝦夷人ハ髪ヲ切ルナリ）赤人トハ殊ニ親シカリシ
由シ寛政戊申ノ年守重エトロフニ至リシ時シ

ヤルレヤムニテハウレビヲ呼出シ赤人ヨリ何事
学ビタリヤト問ケルニ赤人ヨリ佛像ヲ与エ苻児
ヲ教ヘ云ケルハ此佛像苻児ヲ尊信スレハ漁業
モ盛ニ難破船ノ患ナク其外願フトコロ叶ハ
ズト云フナシト其苻児ハ何ト云ヤト問ヒシニ
ハウレビ立テ赤人ノ如ク三ツ指ヲ聚メ額ト胸
ト両肩ヲ指シテホツポミポミロイト云唱エ言
ヲ三度トナヘテ拜シタリチプカ夷入イチヤン
ケムシ亦同シ

天明六午年四月赤人ノ船東海ヨリ乗リ廻リ
松前ト南部津軽ノ瀬戸ヲ西海ニ飄セ出ミテ
松前ヨリ三里ホト西北エラフ村ノ沖ヨリシニコ
ヽキ村ノ沖ニ繫ル時ニ蝦夷人猟船ニテ出ケ
レバ手招シテフラスコエ酒ヲ入レテ与ヘタリ
寛政八辰年八月東蝦夷地アブタエイギリスノ
蛮船一艘蛮人百十人乗ニテ渡来ス武官ノ内ニ
魯西亜人一人アリテ松前人エ通弁セリ
寛政七八年ノ頃赤人ノ大船一艘六十人内女

三人クルムセノ蝦夷一人乗組カムサスガヨリ出
船ノ由ニテ同年九月ウルップ嶋エ渡来ワニナ
ウト云所エ上陸シテ家倉ヲ作リ在住ス初
辰年ニツコタンニ住セシガ三人死シ己年三月ニ
十八人帰國午年五月十四人帰国シ残十七人
内女三人ハ此人数ハ死失帰国モアレハ不定ナリ今ニ居残リ蝦夷人
エハ年々帰国スベシト欺テ更ニ去ラズ其赤人ノ
頭タルモノ二人アリニイタラシト云モノハ午年帰
國ス今ハケ子トブシト云モノ残リテ在留シ赤
人ノ子モ出生シテ既ニ五六歳ニ及ベルアリ其率
ル所ノ夷人モ亦赤人ノ風俗ニテ髪ヲ結ヒ髭ヲ
剃ルシモシリ嶋ノ夷人シレイタト云モノモ来リテ
赤人ノ通詞ヲナス鉄炮玉薬ハ夥シク貯ヘ置
キ十年余常ニ用ユレモ今尚貯ヘアリ赤人ノ内
鍛治スルモノモアリ犬ノ如ニテ毛白ク尾長キ獣
ヲ持渡リ畜ヒ置タリ其小舟ハ二品アリ一ハ皮ニ
テ張リ木ニテ骨ヲ入レ用ヒザルキハ木ヲ弛シ
皮ヲ畳ム大サハ図合舟ヨリハ小ナリ蝦夷ハ

トシドナップト云赤人ハ一イタレト云一ハ木ニテ
造ル蝦夷ハロクンドト云赤人ハボロレヨンナイ
ト云赤人来リシ初アツケシノ乙名イコトイ
モ此嶋ニ越年シ赤人トハ殊ニ親シクイコトイ
ヨリモ赤人ノ國王エ獵虎皮ヲ献ジタリ前々ハ
赤人トモ蝦夷人エ對シ格別親ミタルコモナク
又毎度渓場ヲ爭ヒシコモアリケルニ辰年エ
トロフ蝦夷トモ赤人在留後初テ渡海セルキ
ニハ赤人格別ニ夷人ヲ親ミ厚ク丁寧ヲ盡シ

ケリエトロフ夷人例年ノ如クウルップ渡海セ
シニ赤人ノ家アリシユヘ不審ニ思ヒ沖合ニ踟躊
セリ然ルニ赤人小舟ニテ出迎ヒ酒烟艸等飲セ
悉ク馳走セリソレヨリ日々飲食砂糖ナド贈リ
ウタレニ至ルニテモ酒食ヲ以テ饗待セリ其上獵
漁ノ事モ前々ハ常ニ爭論アリケルガ此度ハ
然ラズ蝦夷人ドモ獵虎ヲ持往キ賣ラント云ヘバ
日本エ出スベキ産物ナレバ買フベカラズ輕物ハ日
本エ出スベキナド云日々引網ヲ以テ渓事シ

テ其魚ハ半ハ蝦夷人ニ分チ与フ赤人云向後
年々日本ノ産物持来ラバ彼国ヨリモ品々持
越交易スベシ蝦夷地ニハ日本人モ来リ居ルユヘ
日本ノ産物多カルベシ何品ニテモ持来ルベシ其内
皮類尤モ望ム所ナリス米ハ格別ニ珍重ト云夷
人ヲ見ルゴトニ日本ノ米ハ所持セズヤト再三問フ
コトナリ米スラ渡スベクハ反物類何ニテモ交易
スベシト云其赤人ノ名ワレレイコレニラブズ
ヱズドンケレトブセ長タル者イリコウツカノ産五十歳余。イヱフ
テベイワブセン四十歳余。イワンゼリヤシノフ三十歳余。ニクク
セムカアセン。ステバンドニセフ四十歳余。ミハイラシクジ
子ヱゾフ。ミテレイセレヱヘレヱニコフ。ミハイラシ
レイチコフ。ダニハホトフ五十歳余。ステバンガザンツラ
ウフ三十歳余。ラニレヤアレキセヱワ二十三歳。イワンドロ
ヒム三十歳余。女二人ゼナンヱラニノラリイナ二十八歳。ラニ
レヤアレキセヱワ二十三歳女子三人ナタリヤ六歳
ヘドレヤン四歳ラリイナ二歳右赤人于今テウルツ
ブ嶋ニ在留シテ去ラズ

ハンヘンコロウ

明和八卯年阿波ノ海濱ニ異國船漂着シ其後琉球國大嶋ニ其船着岸シテ同所ヨリ長崎在留紅毛加比丹ニ書ヲ送ル蓋シ阿波ノ大守薪水ヲ賜フノ恩義ヲ謝シ且松前蝦夷地ヨリカムサスガ迫ノ要害油断スヘカラサルコヲ告ケ越セシナリ其加比丹ニ送リシ書ハ其時長崎ニ於テ通詞シテ譯サシム其文下ニ載スハンベンゴロウノ事魯西亜ニテ名ヲアウストニ云元来ポリシヤ國ノ士ナリシガ故アリテモスクワニ囚ハレタリ頗悟ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナルコアリテシホツカトカムサスガトノ間セレホレツコイセカーフカトニ云所ニ左遷セラレテ居タリシ時イツコイロフ。バセローフト云二人ノ官士ロシヤエノ貢物ヲ積シ大船ニ乗テ此所ニ来ルアウス曰我願クハ蝦夷及日本ノ東海ヲ廻リ南洋ニ出テ本國ニ歸ラント志スニ今時ヲ得タリトテ狼藉ニ其船ヲ奪テ開帆セントスイツコ

イロフ大ニ怒ルハセロフ日本ノ東海ヲ廻ルヿ幸
望ム所ナリトテ共ニ船ヲ出シ南方ニ針路ヲ求
メ開帆セシガシモシリ嶌ハ善キ湊アレハ此ニ船ヲ
繫キ薪水ヲ取リタリイツコイロフハ船ヲ出ス
コヲ肯セス於是大ニ打擲シテ砂濱ニ棄置テ出
帆ス其後詳ナルコヲ知ラズイツコイロフハ蝦夷
人ト共ニシモシリヨリカムサスガニ帰ル帝其心
ノ堅キコヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ
針路深淺ヲ測リ四国ノ阿波エ船繫シテ薪水

ヲ取ル時ニ阿波ノ国主厚ク撫卹アリ夫ヨリ阿波
ヲ出帆シテ琉球國大嶋エ至リ同所ヨリ長崎ノ
紅毛加比丹エ書ヲ送リテ阿波ノ国主ノ恩義ヲ
謝シ且日本ノ油断スミジキ由ヲ告ケ越セリ夫
ヨリ天竺ノ南洋ヲ廻リフランス国ノバテリト云
所ニ着船シテアウスハ又其地ニ居ルト云ハセロフハ
船師ヲ率テ本國エ歸リ日本及蝦夷ノ地理南
洋ノ方程ヲ言上ス帝ソノ大量ニシテ智謀アルヲ
賞シテ（一説ニアウス後ニトイチ国ヨリ加比丹エ書簡ヲ送ル加比丹長崎エ齎来リテ出ストモ云ヘ説ニ安永ハ

亥年長崎渡来ノ紅毛人トイチ国ヨリ其書簡ヲ持来テ国主ニ送リ則江城ニ上達シ長崎ノ通詞シテ譯セシムト世ニ説恐クハ非ナリ 寔美ヲ賜フト云其横文字七通アリ則紅毛通詞ウシテノ加比丹エ（古加比丹ダニイルアルメナク ルト新加比丹アンレントウエ）ルレム ヘイト 問ハシメ譯セシム其七通ノ内二通ヲ左ニ載ス

ウシテノ人エ（下札 ウシテノ人エトハ琉球ノ内 大浮ノ人トハ成ノ事ナリ）

呉國ニ八月ニ旬ウシテ石上陸仕居ル不及別湯ル陸仕方ニ相歎ル不鴻ク人米水薪菓子類ニ相與ル仕合ヲ拵ル寛ヒ存ヲ漂着ニ付右返礼ニ送ル不成ニ付御国ニ人

情厚キ事恩義難謝ヲ存ル

忠孝人ヲ以ツ〻ツ〻ツ〻だるヲ人ヲ

こ孝ニ

長崎ニ於テ阿蘭陀国ハ弓或屋敷歎没ニ人ハ

数日ニ艱難ニ遭海上ヲ渡ル長内再ビ日本ニ地漂流

ヲ不得ヲ来不幸ニ死ル事ハ我モ面目

我ヒ幸ガリヨウト私式艘フレガット ニ艘かむしかつ

てかがルスニ余ヲ待要害ニたり日本國ニ妙ヲ思ル

看又一面に集り仏蘭西に
レカワテカモアラ
ルスエ、原ルモノ
[下紙]ガリヨウトモフレガットモ仏蘭西ノ
ルスエトアラムスコウビヤエ公ニ仕ヘカム
必定考仏来寄に到る五三之地を分と不
鴻に多を人事に成突に代筆に絶ハ赤道以北極を
三十八分に溶量を溶れ也 赤道以北四十度三十八分に溶量を溶れ
アラ俵に敷を量れ分を分を俵に
かむ点かりてから迫不クルリイ又ロ戸溶ハクルリイ
ヌトアル
溶ス阿蘭陀人に溶蘭面に間子
アルイ日ロ阿ロ戸俵敷知不アル
沼尻ホーゴエーデレンスに対し
ホーゴエーデレンストアルを行も
ロ沼分に人とすこは井ル
弾民不任義告知セ度に得ル新書を通しルる之事
厳密ルス国に後不禁ロアル今家に信を重しル後を以
用文に義に比ル後者ハ旦エラロワパに人物に於ること
私に云貴邦ハ私を出義を害を防き拒へしと謹而告
報ル
千七百七拾一年 ユークイ廿日 守東云千七百七十一年ハ則
明和八年に當ルナリ
ウレ、ニおのそ
元俵人とアリロ行きるえ度ゴ溶し
一溶蘭に如渡ルまるルハかむ点かりてから渡迫に溶蘭に義
ロまるルハ点に不退書かむ点かりてから溶蘭義義出お見ロアル
一艘鴻に乗りル敷かむ点かりてから蘭義義敷に乗ル御用に

其の沿革

カムサスカ地方（一ニカムシカツトカ一ニカミシヤツケ）

東砂葛記及魯西亜志云カムサスガハ魯西亜ノ
屬國ニシテ彼国イルクツカト云大地ニ屬セル七
國ノ一十リ（彼國東方シベリイノ東邊ニイルクツカト云地アリ則イルコウツカナリ）其
地ニ大河アリカムシカツトカト云其源北極五十
四度ノ邊ヨリ流レテ五十六度半ニテ大東洋ニ注
ク故ニ其地ニ名ケタルナリ日本ニテ古ヘ奥蝦夷
ト稱セシ地十リ此地イルクツカノ東邊ノ地ヨリ
長ク指出テ南西北長サ二百四十里ソノ南ノ崎ヲ
クリルスカヤロバチカト名ク則クルムセナリ五十一度半ニ
當ル此地ハ山甚多シ然モ石山ニテ不毛ノ地十リ
中ニ三ツノ火山アリ昔ヨリ常ニ烟ヲ吐キ又時ニ
焔ヲ出シ灰ヲ降ス一ハアワレンスカヤ一ハチュルハシン
スカヤ一ハカムシカツトカト云此山第一ノ高山ナ
リ毎年二三度ツヽ灰ヲ噴出ス元文二年（千七百三十年）大ニ
焼出テ石及ヒ種々ノ硝子ノ如キモノヲ吹キ出シセ
シコトアリ又温泉極テ多シソノ水常ニ夏ノ熱

サノ如キモアリ又常ニ沸騰シテ鳴リ響クアリ
其傍ニテ人声ヲアゲテ呼レバ濃キ烟ヲ起シテ
三四丈モ隔リタル所ハ見ヘザルヤウニ成モアリ
ソノ水面ニ黒キ沸沫アリテ手ナドニ附ケバ洗
テモ落ガタシ（堤地油ナリ本邦越後ノ臭水ノ油ノ類ナルベシ）地震海嘯（ナミ）
ハ度々アリ火山ノアタリハ別テツヨシ気候ハ一
年ノ内八月ハ冬ノ如シ南ノ方ハ常ニ雪ノ深
サ一丈余北ノ方ハ却テ雪ナシ夏ノ気候ハ甚
短シ故ニ五穀ヲ生ゼズ但子ーテルホルトカムシ

カツトハ畑ヲモ作ルナリ雷ハ甚稀ナリ
國人ヲカムサスガデルストニ是数百年前蒙古
国ヨリ其人衆ヲ置タリ其人アムルト云川（支那ニテ黒龍江ト呼モノナリ）ヨリ渡リテ處々ニ住居ヲ構ヘテ散在スル
ナリ其人物甚長大ナラズ色ハ赤黒ノ髪ノ色黒
シテ惣テ面濶ク鼻尖リ目深ク眉アラシ垂タル
腹廣キ肩手脚ハ痩タリ皆沿海ノ所ニスムソノ飲
食ハキワメテ穢シ豢タル狗ノ物クヒタル器ヲソノ
マヽ拭清ムルヿモセズニ用ユルナリ居所ハ土ヲ四
ノ

五尺掘テソノ上ニ柱四本タテ屋根ヲ造リ土或ハ草ニテオヽフ上ニ四角ナル穴ヲ穿テ烟出シ明リトリ出入口ニカヽ子用ユルナリ漁猟ノミヲ業トス衣服ハ諸ノ獸皮ヲ以テ綴リ接テ用ユ家具ハ石又鯨ノ骨獸ノ角等ヲ以テ木ヲホリ四メ皿鉢ノコトクニシテ用ユルナリ魯西亜ヨリ来ル外ハ銅鉄ノ器ヲ用ユルヲ見ズ犬ヲ多ク養テ牛馬ノ如ク使フ雪中ニ氷上ヲ舟ニテ行ニ之ヲ用テ牽シムルナリ妻ヲハ何レモ二三人ヲ持ナリ子ヲ産テ若シ孔生ナレバソノ一ヲ殺ス以前ハ土人尤野鄙愚陋ナリシガ魯西亜ニ服従シテ後寛保元年十七百四十一年ヨリ女帝ノ命ニテ天教ノ會士等ヲ遣シ来ウシイヤムチュプカ夷人ノ所謂ヨウロ土人ヲ教導セシムルニヨツテ教化モ行ハレ道理モ開ケタレバ遠カラズ善良ノ民トナルベシ又一種ノ夷人アリクリレスト云カムシカトカノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ナリ（クリレルスノ前ニ見ユ守重云以上説トコロ我奥蝦夷ノ風土ト符合ス故ニ詳ニ載ス然レドモチュプカ諸島ニテ犬ニ物ヲ引スルヿ未聞ズカラフト續ノ地方ハ皆同ジキヿカカムシ

カツトカニ魯西亜ノ小城五坐アリ一ヲボルスケレツコイト云ボルスカヤト云大河ノ側ニアリペンシンスカヤノ海湾ヲ去ルヿ三十三ウェルステン一ウェルステンコ三百五十丈ニ當ルなるルステン五百五十七尺八分三ヱルスタ六分日本一里ニアタル城ノ大サ四方四十九丈オコツコイ通商ノ船先ツ此地ニ来リ集ル故ニ甚繁盛ナル地ナリ ニラシップルホルトカムシカツトカト云五ケ所ノ内此城尤古シカムシカツトカ河源ヲ去ル一六十九ウェルステンホルスケレツコイノ北二百四十二ヱルステンニ在リ倉廩武庫ヲ設ク 三ヲ子ーテルホルトカムシカツトカト云シップルホルトノ即位三百九十七ウェルステンカムシカツト河ロヲ去ルヿ三十ウェルステン城ノ廣サ方二十八丈周リニ木柵ヲ構フ 四シアツアカト云元文五年 千七百四十年ニ建ツアツツカ河ノ港ロニ在リ守重云今長崎エ帰来ル魯西亜ノ漂民仙臺石巻若宮丸船頭清兵衛其外ロシヤヨリ差越セル書状ニアツガト云所エ着トアルモ疑ラクハ此地ナルカ 五シデノキルト云近コロ建タル城ナリデキル河辺ニ在リカムシカツトカノ属島極テ多シ著キモノヲ左

ニ拳ク
クリルノ諸嶋ハカムシカツトノ南ノ崎ヨリ南西
ノ方ニ連綿シテ散在ス著シキモノ二十五島ア
リ一ニ曰三十六其瑣々タルモノ数ヲ知ラズカムシカツト
カニ近キハミナ曾西亜ニ従ヘトモ遠ハ別ニ属ス
ル所アルベシ或云此諸島カムシカツトカノ方ヨリ初トシテロシヤノ言ヲ以テ第一嶋第
二島ト次ヲ遂テ此諸島ノ人クリルノ人ト互ニ交
易ヲナス日本ノ人モ之ニ加ルナリウツルベ按ニエトロフ島ナルベシ

但交易ヲ通ズルノミナリフランド子テルニテカラムシノ如キモノナリ布ヲ製シ日本ノ絹木綿鐵器等ト交
易スルナリ此嶋ノ東南ニクナシリト云蝦夷ニ属
シタル嶋アリ又ニツニエト云大嶋アリ日本ト一線
ノ海路アリテ之ヲ隔ツ此嶋既ニ日本ニ従ヘリ
クナシリノ人ニ之ヲ審ニスルニ此海路ノ隔アルコヲ
云ヘリ此島南北凡六百里アリ日本人エゾト名ノ
子ルレンスキハ黒龍江ノ岸ニアリ北極五十二度
ノ地ナリ十六百八十九年元禄二年城郭ヲ築キ支

那ト疆ヲ固メ此地ヨリ北京ト交礼ノ使節ヲ通ス

荷蘭全世界地図書譯ニ云（此書寛政年間船来スル所ノ図ナルベシ紅毛通詞本木仁太夫一ノ符号ノ横文字ノ文ニナルモノ飜譯ス）云此地畠ハリュスランド國（則ロシヤナリ）ノ閣老ノ筆記役ヨハンネスケイリロウト云シモノ一千七百三十四年ニ當テ出シ与フル地図ニ従テ正補シタル地図ナリ船主スパンベルゲト云シ者カムシカツトノ地ヨリ船ヲ乗タル説ヲ記録スニノ符号ノ横文字ノ文云去ル土曜日ニ當テカムシカツトノ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚一人参着セシナリ船主スパンベルゲト云シ者カムシカツトノ地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮ミ十六日海路ヲ乗リ大小ノ嶋三十四島ヲ見閲キ彼レ陸ニ至ラント思ヒ小船ヲ六艘造リテ之ニ乗リ彼地ヲ見閲シガ為ニ人ヲ陸ニ至ラシム土人叮嚀ニ應對ス言語ヲナスヿ能ハザレ𪜈錢ヲ見セシム船主ノ上ニ裁配ノ人ニヘヤリンキト云シ人アリ彼レニ此

夏ヲ知ラレメズシテ船主自ラ彼ノ地ニ至ラシ
ヲ議シ船主カ大君ノ重ニ一夏ナル故ニ人ニ知
ラシメズ彼ガ利欲ニシテ己カ大君ノミニ披露
セシヲ思ヘリ是ニ因テ裁配ノ人謀ヲ成シ彼ノ
地ニ至リテ春ヲ歴タリ意フニ日本ノ嶋ナランカ
彼ノ地ヨリ持来リシ一紋ノ小銅銭大サ和蘭銭
ノ如ニシテ少ク厚ク平ニノ周郭高シ中ニ方
孔アリ其方孔各方ノ傍ト線トノ間ニ一面ニハ
文字アリ日本ノ文字或ハ支那ノ文字ナランカ

一面ハ無字ナリシンドベーニルスビルクノ地一千七
百四十年正月十三日
蛮書云（コーランツトルコ譯テ万国傳信紀事トニモノ）王国西別里亜此地
極テ廣大ニシテ沙漠ヨリ北ノ方氷海ニ傍ニ其東
ハ東方ノ大洋ニ至リ蝦夷ノ東北カムシカツトカニ
至ルニテ皆此部内ニ隷セリ
蝦夷双紙云魯西亜人イシュエ云カムサスガノ北ニ
チヨウキチト云国アリ北極六十度ニ及ブト云蝦夷
ニモアラス魯西亜ニモアラズ国主モナカリシカ近来

魯西亜ヨリ服従セシメ國ノ名ヲ改テアナカデルス
コイト云此国ニ大河アリアナデリト云因テノ名ト
スヲレニト云獣アリ此國ヨリ北ハ小島ツヽキニテ四
時氷海ナレバ通船スルヿ能ハズ北極六十余度ニ
及フト云此国ノ人山猟ヲ業トス守車拂ニ魯西亜志ニ云アナデル河ハカムシカワトカノ北ニアリシントイコス峯ノ東ヨリ大東洋ニ注ク又云アナジルスキハ東北ノ隅ニシテアナシル河岸ニアリ北極六十六度ノ地ナリ此地ナラ未タ全ク本国ニ服従セス其地ノ尽頭ニ大ナル地アリヒラカムシカツトカト云

魯西亜聞畧イシュサスノスコイノ話ヲ記ス中村某ノ記云シロシーヤノ國
南ハ韃靼清朝天竺ヲ境トス清朝ノ方ハアモルト
云大河ヲ國境トシテ魯齊亜ノ国内セハフタト
云所ヨリ両国ノ交易アリ此処ヨリ北京ヱ近シ
本国ヲモスクワト云ベテルボル。イリコーツケ。
イヨコツカ。ヲホツカ。カムサスカ。チヨウキチ等
ノ地アリヲホツカカムサスカハ東北ノ海濱寒國
ニテ穀類ナシイリコツカ邊ヨリ飯糧運送ス
産物皮類多シ此処ヨリ東北ノ諸島ヱ猟船ヲ
出スウルツプ嶋ヱモ十六ケ年ホド以来猟虎猟
ノタメ年々来ルヲホツカハ守護一人下役四十

人ハ役二百二十人イリコツケヨリノ勤番所ナリ
當時守護人ノ名イワンビヨウドロイシヨベン
デン。カムサスカハ奥蝦夷ノ島ト近シ守護一
人下役二十人ハ役百人余當時守護人ノ名
フランスイレヨリニキン其里程ハクナシリ島ヨリ
海路五百五十ウエルスタ（此里数百五十里。ウルツ
ウルツプ嶋ヨリカムサスカ迄）
海路八百ウエルスタ（此里数二百二十二里余曲尺七
尺二寸ヲ五百合ニテ一ウエルスタト云セウエルスタヲ一ミーラト云是ハ海路
ヲ積ル法ナリ陸路ハウエルスタヲ以テ積ナリ）
唐國ノ境ニセワフタト云処アリアモルト云大
河ヲ境トシテ北京ト交易ヲ為ス両国ヨリ番所ヲ
立テ境ヲ守ル北京ノ交易ノ直段荒ニシテ下ノ如シ
獺席皮（一枚代紬木綿百五十反ホト）獺皮（一枚代同十反ホト）狐皮（一枚代同三反ホト）
貂皮（一枚代同二反ホト）白海豹皮（一枚代同二反ホド）日本ノ事聞及ヒ
タルヤト問フニ長崎ト云所アリテノ紅毛イスパニ
ヤノ人年々来テ交易ス其人又シロシーヤエ来ルモ
ノアリ故ニ詳ニ聞及タリト云
一書云（寨上常矩ノ記）赤人イエヨノ記スル所渡海ノ里程左如シ
ノツカトツプトクナシリノ渡（六十エルスタ有リ即十六里二十四丁十リ

クナシリトエトロフノ渡二十一エルスタ即五里三十丁エトロフウルップノ渡六十五エルスタ即十八里二丁ウルップ徑百五十エルスタ即四十一里二十四丁ウルップトチリポイノ渡三十エルスタ即八里十二丁チリポイノ間二十五エルスタ即六里三丁チリポイトシモシリノ渡百エルスタ即十七里二十八丁シモシリトカムサスガトヲホツカノ渡九百エルスタニ足ラズ守重云シモシリ前路カムサスカ迫ノ里程諸記ニ云所大同小異ナリ今別ニ説ヲ不作其大畧ヲ見ルノミ

魯西亜紀聞云壬子聘使アダムラクスヒコ。エゴロトコロコフ。ウワスバヒコーフ三人ノ話ヲ記スノ記ナリカミシヤツカ家数百四五十軒代官在テ守ル大川アリ船ハ川ノ内エ入レ置クヨキ澗泊アリカミシヤツカヨリアミシレツカ迫海上里数凡千四百里同所ヨリチキリ迫三百七十里山越路ナリ家数凡二百軒代官アリチキリヨリヲホツカ迫海上里数凡八百里代官アリ大船川エ入ル湊ハ海底砂ニテ浅シ故ニ汐満ルヲ窺ヒ船ヲ入ル、ナリ陸ヨリ二百間斗リ冲ニ右ノ砂瀬アリ外ニ澗泊モアリ戸数凡二百軒余同所ヨリヤコー

ツカ迫山越路凡千十三里代官アリ戸数凡五百軒
此地昼夜朦朧ト シテ明ナリ然レ𪜈暮ニ至テハ
少シ暗シヤコーツカヨリイルコーツカ迫里数凡二十
四百八十六里川ヲ沿フ凡中三百五十里ハ旅館アリ戸
数凡二千百六十軒代官アリカミシヤツカ。チキリ
ヲホーツカ。ヤコーツカ等ノ代官ハ皆當所代官ノ
配下ナリ同所ヨリ魯西亜ノ都ペテルボル迫凡
五千八百二十三里古都モスクワヨリ今ノ都エ五十二
里日本ノ一里ハシロシヤノ三里ト日本ノ間ニ当ル二百六十間ナリイルコウツカヨリ満洲迫
ミンチュレト云凡四百五十里大川アリ両國ノ境トス川ノ名ヲ
アレカアモーロト云黒龍江ノ下ナリ支那ヲキタエ
スコイト云支那ノ都ヲペーキントト云王ヲバントト云サ
バリンノ島周廻凡七百里支那ノ夷ゲレヤスト云者
居ルヲホーツカニ阿蘭陀人六人住居スルト云イル
コーツカ。ヤコウツカ共ニ雪フラズ寒氣ハ至テ甚
ト云シロシヤ人冬ハ雪橇ニ乗リテ往来ス橇ハ犬ニ
ヒカセルナリ犬ハ皆尾ト陰嚢ヲ切ル馬モ陰嚢
ヲ切ルナリ如此スレハ精気衰ヘズシテ強シト云

陰囊ヲ切リ玉ヲ取リ捨テ其アトエ塩ヲ入テ縫
ト十リ アメリカ人鼻ヱ穴ヲ通シ牛ノ鼻クリノ如
クシテ骨ニテ牙ノ如ク拵ヱ其穴ヱ通シテ下ヱ垂ル
下唇ヘモ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ拵ヘ下ヶ置其人此度
両人来レリ守重云蛮書ニウエホフニ北アメリカノ人頬ニ牙ヲ通セシ圖アリ アミシイ
ツカノ女下唇ニ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ拵ヱ其穴ヱ
通シ下ヘ垂ル惣身文ニスシロシヤ國ノシホーツカ
ヨリ松前ノ東夷子台迫海上里數凡千九百里

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan